

## E 型肝炎・E 型肝炎ウイルスについて

### 【E 型肝炎・E 型肝炎ウイルスとは】

肝臓の病気である肝炎を起こすウイルスには A 型、B 型、C 型、D 型、E 型肝炎ウイルスなど多くの種類があります。E 型肝炎ウイルス（HEV）の感染によって起こる肝臓の病気が E 型肝炎です。わが国では E 型肝炎は「四類感染症」に分類されており、診断した医師は保健所へ届け出ることが義務付けられています。

### 【E 型肝炎の症状について】

HEV に感染した大部分の方は、自覚症状がまったく出ないまま自然に治ってしまいます。ところが、一部の感染者では、①身体がだるい ②食欲がない ③発熱 ④吐き気がする ⑤黄疸が出るなどの症状があらわれます（発症）。これが急性肝炎です。手足のしびれをとまなう場合もあります。重症化することは少なく、発症しても 1~2 か月で肝炎は治り、その後慢性化することはほとんどありません。しかし、ごくまれに激しい症状（劇症肝炎）を起こして死亡する例が道内でも報告されています。また、最近では手足のしびれ（神経障害）を伴う場合があることも報告されています。

### 【E 型肝炎ウイルスの感染源・感染経路について】

E 型肝炎は熱帯地方に特有の流行性肝炎であり、そのような地域へ旅行に行った人が HEV で汚染された水や食物を飲食することで感染する病気（輸入感染症）と考えられていました。しかし、日本や欧米諸国において、流行地域へ旅行していない人が HEV に感染していることが次第にわかってきました。これらの国々では、HEV は、人間以外にも、豚、鹿、猪などの動物の肉や血液、糞便から見つかりました。さらに、貝類、海水、下水からも検出されています。最近、わが国では、豚、鹿、猪の生肉やレバー、ホルモンなどを食べて感染した事例（食物感染）が報告されました。これは HEV が感染した動物の肉を十分加熱しないまま食べてると HEV に感染する可能性を示しています。

また、日常生活においては、感染者から他の人へ HEV がうつる可能性はほとんどないと考えられていますが、HEV に感染した献血者の血液を輸血された患者さんが、E 型肝炎を発症した事例が道内で確認され、輸血感染することも明らかとなりました。さらに HEV は感染者の便や唾液にも排出されますので、これらを介して感染する可能性も否定できません。

### 【献血血液の E 型肝炎ウイルス検査について】

北海道は E 型肝炎患者が国内で最も多い地域と考えられ、輸血感染も複数例確認されています。そこで、日本赤十字社北海道ブロック血液センターでは、道内の献血者の方を対象に、2005 年から E 型肝炎ウイルスの遺伝子検査を研究的に実施しています。2016 年までに約 530 名の陽性者が確認され、検査法を高感度化した 2014 年 8 月以降では、約 2500~3000 人に 1 人の割合で見つかっています。